

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006～2009

課題番号：18203024

研究課題名（和文） 近代的な経済発展における市場制度の形成と生産組織の変化に関する歴史分析

研究課題名（英文） Historical study on institutions of markets and organizations of production in modern economic development.

研究代表者

中林真幸（ NAKABAYASHI MASAKI ）

東京大学・社会科学研究所・准教授

研究者番号：60302676

研究成果の概要（和文）：

本研究計画は、近代的な、すなわち匿名的な取引が支配的な市場経済を成り立たせる取引統治の制度がどのように形成され、そして、それとともに企業組織や生産組織がどのように発達するのかを、実証的、理論的に解明することを目的としている。研究代表者および連携研究者は分担部分の研究を推し進めると共に、大阪大学大学院経済学研究科において毎月開催された「制度と組織の経済学」研究会においてその中間成果を共有した。そうした蓄積を踏まえ、最終年度である平成 21 年度には、まず第一に、日本学術振興会「国際研究会議」としての資金補助を得て東京大学社会科学研究所において 8 月に「制度と組織の経済学」東京会議を開催し、第二に、同じく 8 月にオランダのユトレヒト大学にて開催された第 15 回国際経済史会議におけるセッション"J7 - States, institutions, and development: Standardization and enforcement of trades in diverse markets"、そして第三に、9 月に東洋大学にて開催された第 78 回社会経済史学会全国大会パネルディスカッション「制度と組織、そして市場—外なる差異の裁定と内なる差異の創出」を組織するという特筆すべき成果を上げた。「東京会議」では理論に重点を起きつつ、本計画の成果について徹底した討議を行い、国際経済史会議では、本計画の経済史研究者と、本計画が過年度において日本に招聘した海外の第一線の経済史研究者とが改めて問題意識を詰め直し、その成果を 3 年に 1 度開催される、経済史学界最大の国際会議における独立セッションとして報告した。社会経済史学会では若手連携研究者による市場と組織の相互作用に関する実証分析の成果発表に重点が当てられた。いずれも、市場を成り立たせる取引統治の制度と、企業組織や生産組織との相互作用を重要な問題関心を共通として持ちつつ、理論的な考察と実証的な分析の往復から創造的な知見を提供することに努めた。

研究成果の概要（英文）：

This project has pursued to clarify both empirically and theoretically how modern, or “impersonal,” governance of trades that supports market economy has been formed and how firm organization and production organization has developed along with the market expansion. The project leader and the cooperative members have progressed their own portions, and met at monthly “Workshop on Economics of Institutions and Organizations” at Graduate School of Economics, Osaka University, to share each progress. Given that continued effort, in 2009, the last year of this project, first, we held the Tokyo Conference on Economics of Institutions and Organizations in August, with additional financial support by JSPS as an international meeting. Second, also in August, we organized the “Session J7-States, institutions, and development: Standardization and enforcement of trades in diverse markets,” in the 15th World Economic History Congress at University of Utrecht, the Netherlands. Third, we held a panel titled “Institutions, organizations, and market: arbitrage of difference in the market and creation of difference in the organization” in the 78th annual meeting of Socio-Economic History Society. The “Tokyo Conference” intensively discussed the achievement of this project

with concentrating on theoretical aspects. In the World Economic History Congress, the biggest academic meeting of economic history in the world held every 3 years, economic historians of this project provided their works from this project at a session exclusively for this project and exchanged with forefront researchers in the field. In the socio-economic history society meeting, younger members presented their unique works from the project. At all of these opportunities, we have made effort to create new insight about governance of trades that supports market mechanism and its interaction with firm organization and production organization, based both on theoretical and empirical works.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	7,700,000	2,310,000	10,010,000
2007年度	7,000,000	2,100,000	9,100,000
2008年度	7,100,000	2,130,000	9,230,000
2009年度	6,300,000	1,890,000	8,190,000
年度			
総計	28,100,000	8,430,000	36,530,000

研究分野：経済史・経営史・比較制度分析

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：経済史、経営史、企業理論、産業組織、比較制度分析

1. 研究開始当初の背景

近代化の経験が遠い過去のこととなる一方、単一的な市場観を持つとともに生産組織を「暗箱」のなかに括る新古典派経済学がマルクス経済学に代わると、制度や組織を「比較」する歴史学は後景に退いていった。そうした新古典派的な単純化の方向が逆転したのは、1980年代に青木昌彦らが「比較制度分析」を提唱して以降のことであった。「比較制度分析」はゲーム理論に基礎を置くが、ゲーム理論はそもそも均衡が唯一であるとは考えない。効率的な均衡上に発展する社会も、非効率的な均衡上に停滞する社会もある現実に肉薄する手段を経済学はようやく手にしたのであり、それは経済史研究にも影響を与えた。実際、経済史研究においても、「比較制度分析」の枠組みを意識した研究は一定の成果を上げてきており、「比較制度分析」それ自体はもはや「斬新」な視角とは言えない。にもかかわらず、より効率的な制度と組織の形成によって経済発展が加速する様を明らかにする「進歩」の近代経済史が再構築されたとは言えない。その再構築の必要性が、開始当初の背景として認識されていた。

2. 研究の目的

本研究の代表者と連携研究者、および海外共同研究者を中心とする研究協力者は、制度と組織が多様性を含み、あるいは増幅させながら、しかし、共通して効率性を高

めた「近代」の「進歩」の経済史を再構築することを究極的な目標として共有しつつ、現実に到達可能な目的として、近代において最も成功した制度と組織の事例に限定して比較分析の経済史を記述し、そのための歴史理論を仮設することとする。

3. 研究の方法

本研究課題の研究代表者と連携研究者は経済史、経営史、契約理論、労働経済学、産業組織論、経済成長論、都市経済学を専門とする者から成る。実証家と理論家とに跨り、しかも分析対象を異にしつつ、制度と組織が経済発展に及ぼす影響を分析することを目的とする点において、研究関心を共有する、そのような研究組織である。

こうした、分析対象と分析方法を異にする研究者から成る共同研究は、しばしば、互いの専門性を薄め合った上で成果を摺り合わせる「学際」的なそれとして追求され、そしてそれは、完成された研究者が成果を持ち寄る場合において、特に効果的な方法である。

しかし、それぞれの専門分野において現在、まさに新たな境地を開拓しつつある30歳代から40歳代の研究者を主力とする本研究組織にとって、かかる「学際」性の安易に追い求めることは望ましくない。そうした判断から、研究費の支出に関しては研究代表者がその必要性を慎重に吟味し、管理するものの、研究計画の細部にわたる遂行過程は連携研

研究者の判断に委ねる分権的な運営方法をとった。

そして、そうした分権的な運営にも関わらず、目的と関心を共有する共同研究組織として機能するために、学期中の月例研究会を大阪大学大学院経済学研究科において開催するとともに、夏期休業中と冬期休業中には東京大学社会科学研究所をはじめとする各地において研究会議を開催し、研究成果を徹底的に討議し、共有することに努めた。4年間、全く休むことなくこの日程を維持して階差入れた「制度と組織の経済学」研究会と名打つこの研究会には、国内外から招待された多くの研究者もまた報告し、応用経済学に関心を持つ第一線の研究者の間ではよく知られた知的共同体の一つに成長した (<http://sites.google.com/site/theoeio/>)。

4. 研究成果

「制度と組織の経済学」研究会に提供された区分計画の成果のうち、特に2009-2010年にかけて刊行されたものについては次項5に列挙されている。経済史研究者の成果が制度と市場、技術と組織の分析に集中していること、理論家の分析が現実に対する説明力を強く志向するとともに、ゲーム理論的な接近と新古典派的な接近の接合をはかろうとする意欲を持つことは、特に、本計画の一部として遂行されたことにとまなう成果と言える。

そうした区分計画の成果については次項5に譲り、本項では、共同発表にかかる大型の成果に紙幅を割きたい。2008年度までの蓄積を踏まえ、最終年度である2009年度には、

1. 日本学術振興会「国際研究会議」としての資金補助を得て東京大学社会科学研究所において2009年8月に「制度と組織の経済学」東京会議を開催した。この「東京会議」は報告者の構成比としては理論家に重点を置きつつ、本計画の成果と、それが持つ射程を含む論点について徹底した討議を行った。
2. 2009年8月にオランダのユトレヒト大学にて開催された第15回国際経済史会議におけるセッション“J7 - States, institutions, and development: Standardization and enforcement of trades in diverse markets”を開催した。この国際経済史会議は3年に1度開催される経済史学界最大の国際会議であるが、そこにおいて独立セッションとして本計画の成果を報告するとともに、討論者を委嘱した Patrick O' Brien ロンドン政治経済学院/オックスフォード大学教授をはじめとする参加者から高い評価と建設的な助言を受けたことの意義は小さくない。
3. 2009年9月に東洋大学にて開催された第78回社会経済史学会全国大会パネルディスカッション「制度と組織、そして市場—外なる差異の裁定と内なる差異の創出」を組織した。この社会経

済史学会パネルでは若手連携研究者による市場と組織の相互作用に関する実証分析の成果発表に重点が当てられた。いずれも、市場を成り立たせる取引統治の制度と、企業組織や生産組織との相互作用を重要な問題関心を共通として持ちつつ、理論的な考察と実証的な分析の往復から創造的な知見を提供することに努めた。

4. 2010年6月に関西学院大学にて開催される第79回社会経済史学会全国大会においてパネルディスカッション「企業統治、所有構造、そして労働組織—日本における近代的な企業組織の形成と発展—」を組織し、経済史と労働経済学を専門とする報告者によって過去100年にわたる日本企業の組織変化を分析する。

以上が学会発表の形をとって学界に提供された大型の成果である。

さらに、経済史研究者が日本経済の長期にわたる制度形成と市場の拡大の関わり、そして、特に近代における市場の拡大と企業組織の発展との関わりを分析した成果が、中林真幸編『日本経済の長い近代化』と題して名古屋大学出版会より刊行される予定である。

また、経済史研究者、組織の経済学研究者、労働経済学研究者、そして産業組織研究者が企業組織に焦点を当てた分析を共同で行った成果が中林真幸/石黒真吾編『企業の経済学』として有斐閣より出版される予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 79 件)

- ① 中村尚史, 「戦後釜石製鉄所における熟練の再編」, 社会科学研究, 無, 61-5・6, 2010, 3-26.
- ② 中村尚史, 「明治期鉄道業における企業統治と企業金融」, 荻野喜弘編著『近代日本のエネルギーと企業活動』, ミネルヴァ書房, 無, 2010, 119-136.
- ③ 松島法明・松村敏弘, 「ライセンス契約と製品差別化戦略」, 社会科学研究, 無, 61(2), 2010, 67-78.
- ④ Ryoji Ohdoi, “Innovation, foreign direct investment and local content requirement”. Osaka City University Economic Review, 無, Vol.45, 2010, 校正中.
- ⑤ 丸山亜希子・山本和博, “Variety expansion and fertility rates.”, Journal of Population Economics, 有, 23, 2010, 57-71.
- ⑥ 高槻泰郎, 「取引統治効果の深化と派生—近世期地方米市場の拡大—」, 東京大学社会科学研究所ディスカッションペーパーシリーズ, 無, J-178, 2010, 1-16.
- ⑦ 結城武延, 「企業金融と企業統治—取締

- 役会の機能—」, 東京大学社会科学研究所ディスカッションペーパーシリーズ, 無, J-185, 2010, pp.1-33.
- ⑧ Masaki Nakabayashi, “Institutions and economic development of early modern Japan”, ISS Discussion Paper Series, Institute of Social Science, The University of Tokyo, 無, F-146, 2009, 1-26.
- ⑨ Masaki Nakabayashi, “The governance of trade in the labor market: An experience of the Japanese silk-reeling industry in the early twentieth century”, ISS Discussion Paper Series, Institute of Social Science, The University of Tokyo, 無, F-145, 2009, 1-18.
- ⑩ Masaki Nakabayashi, “Peasant economy in the ‘debate on Japanese capitalism’: Tenancy contract facing the ‘Turning point’”, ISS Discussion Paper Series, Institute of Social Science, The University of Tokyo, 無, F-144, 2009, 1-17.
- ⑪ Katsuya Takii and Ryuichi Tanaka, “Does the diversity of human capital increase GDP? A comparison of education systems.”, *Journal of Public Economics*, 有, 93, 2009, 998-1007.
- ⑫ Katsuya Takii, “Entrepreneurial competition and its impact on the aggregate economy.” *Journal of Economics*, 有, 97, 2009, 1-18.
- ⑬ Katsuya Takii, “Limited attention, interaction and the gradual adjustment of a firm’s decisions.” *Journal of Economic Dynamics and Control*, 有, 33, 2009, 345-362.
- ⑭ Katsuya Takii, “On the role of job assignment in a comparison of education systems.” OSIPP Discussion Paper, 無, DP-2009-E-006, 2009, 1-26.
- ⑮ Shingo Ishiguro (joint with Laixun Zhao), “Raising wages to deter entry into unionized markets.” *Japanese Economic Review*, 有, 60, 2009, 435-445.
- ⑯ Toshihiro Matsumura and Noriaki Matsushima, “Cost differentials and mixed strategy equilibria in a hotelling model.” *Annals of Regional Science*, 有, 43(1), 2009, 215-234.
- ⑰ Toshihiro Matsumura and Daisuke Shimizu, “Equilibrium location and economic welfare in delivered pricing oligopoly.” *Economics Bulletin*, 有, 29(2), 2009, 761-769.
- ⑱ Toshihiro Matsumura (co-authored work with Akira Ogawa), “Payoff dominance and risk dominance in the observable delay game: A note.”, *Journal of Economics*, 有, 97(3), 2009, 265-272.
- ⑲ Takeshi Abina, Toshihiro Matsumura and Daisuke Shimizu, “Mixed oligopoly and spatial agglomeration in quasi-linear city.” *Economics Bulletin*, 有, 29(4), 2009, 2722-2729.
- ⑳ Toshihiro Matsumura, Noriaki Matsushima, and Ikuo Ishibashi, “Privatization and entries of foreign enterprises in a differentiated industry.”, *Journal of Economics*, 有, 98(3), 2009, 203-291.
- 21 石橋郁雄・松村敏弘, 「複数の潜在的参入企業によるクリームスキミング的行動が市場の競争性に及ぼす影響について」, *社会科学研究*, 無, 60(3), 2009, 51-60.
- 22 猪野弘明・松村敏弘, 「電力自由化と電源構成」, *社会科学研究*, 無, 60(3), 2009, 117-139.
- 23 鳩澤歩, 「1840年代ドイツ語圏諸国の鉄道建設における経営上の諸問題」, *大阪大学経済学*, 無, 第59巻-第3号, 2009, 298-319.
- 24 Akihiko Amemiya, “Innovation der wirtschaftspolitischen ideen in der zwischkriegszeit.”, 首都大学東京大学院社会科学研究所経営学専攻 Research Paper Series, 無, 68, 2009, 1-30.
- 25 高槻泰郎, 「米切手再考—宝暦十一年空米切手停止令の意義—」, *史学雑誌*, 有, 第118編, 第6号, 2009, 73-88.
- 26 高槻泰郎, 「近世日本米市場における財産権の保護」, *歴史と経済*, 有, 205, 2009, 33-45.
- 27 高槻泰郎, 「近世米市場の階層性—大坂堂島米会所と大津御用米会所—」, *社会経済史学*, 有, 第75巻-第3号, 2009, 45-65.
- 28 結城武延, 「資本市場と企業統治—近代日本の綿紡績企業における成長戦略」, *東京大学社会科学研究所ディスカッションペーパーシリーズ*, 無, J-171, 2009, pp.1-29.
- 29 結城武延, 「企業統治における株主総会の役割—大阪紡績会社の事例—」, *東京大学社会科学研究所ディスカッションペーパーシリーズ*, 無, J-179, 2009, pp.1-32.
- 30 結城武延, 「企業統治の成立—合理的な資本市場と綿紡績業の発展—」, *東京大学社会科学研究所ディスカッションペーパーシリーズ*, 無, J-180, 2009, pp.1-32.
- 31 Junichiro Ishida, “Incentives in Academics: Collaboration under Weak Complementarities”. *Labour Economics*, 有, 16, 2009, 215-223.
- 32 Junichiro Ishida, Noriaki Matsushima, “Should Civil Servants be Restricted in Wage Bargaining? A Mixed-Duopoly Approach”. *Journal of Public Economics*, 有, 93, 2009, 634-646.

- 33 Junichiro Ishida, Noriaki Matsushima, “Should Civil Servants be Restricted in Wage Bargaining? A Mixed-Duopoly Approach”, *Journal of Public Economics*, 有, 93, 2009, 634-646.
- 34 Masaki Nakabayashi, “Imposed efficiency of the Treaty Port: Japanese industrialization and Western imperialist institutions,” *ISS Discussion Paper Series*, 無, F-142, Institute of Social Science, The University of Tokyo, December 2008c.
- 35 Katsuya Takii, “Fiscal policy and entrepreneurship,” *Journal of Economic Behavior & Organization*, 有, Vol. 65, 2008, 592-608.
- 36 Kazuhiro Yamamoto, “Technological progress, income inequality and fertility,” *Journal of Population Economics*, 有, 21, 2008, 518-532.

[学会発表] (計 52 件)

- ① 中林真幸, The governance of trade in the labor market: An experience of the Japanese silk-reeling industry, presented for the session J7, “States, institutions, and development: Standardization and enforcement of trades in diverse markets,” organized by Masaki Nakabayashi, Institute of Social Science, The University of Tokyo. XVth World Economic History Congress, 2009 年 8 月 6 日, University of Utrecht.
- ② 中林真幸, 日本経済の長い近代化—諸市場の逐次的な深化と組織の発達—、パネルディスカッション「統治と市場、そして組織—外なる差異の裁定と内なる差異の創出」、にて報告。第 78 回社会経済史学会全国大会, 2009 年 9 月 27 日, 東洋大学。
- ③ 中林真幸, 匿名的な取引網の制御—金融市場の自律と金融政策の成立—、パネルディスカッション「統治と市場、そして組織—外なる差異の裁定と内なる差異の創出」、にて報告。第 78 回社会経済史学会全国大会, 2009 年 9 月 27 日, 東洋大学。
- ④ 鈴木俊夫, “The oriental bank corporation and the decline of the silver price, 1842-1884”. XVth World Economic History Congress, 2009 年 8 月 7 日, University of Utrecht.
- ⑤ Naofumi Nakamura, “Personnel management, business organisation, and internal labour market: A case of the Nippon Railway Company in Meiji Japan.” XVth World Economic History Congress, 2009 年 8 月 6 日, Utrecht, Netherlands.
- ⑥ Takashi Shimizu, “Dynamic auction markets with fiat money.” NYU-Kyushu Search Theory Workshop 2010, 2010 年 3 月 18 日, New York University.
- ⑦ Toshihiro Matsumura, “Evolution of competitive equilibrium with endogenous product differentiation.” 応用地域学会, 2009 年 12 月 13 日, 山形大学。
- ⑧ 佐藤泰裕・田渕隆俊・山本和博, “Market size and entrepreneurship.” 56th Annual North American Meeting of Regional Science Association International, 2009 年 11 月 19 日, Grand Hyatt, San Francisco.
- ⑨ 鳩澤歩, 「プロイセン鉄道技術導入における制度の問題」, 数量経済史研究会, 2009 年 9 月 3・4 日, 国際高等研究所。
- ⑩ 鳩澤歩, 「柿崎一郎氏の最近の成果から—柿崎一郎『鉄道と道路の政治経済学—タイの交通政策と商品流通 1935～1975 年』(京都大学学術出版会、2009 年)へのコメントを中心に」, 「アジアの政治・経済・歴史」研究会, 2010 年 2 月 22 日, 京都大学東南アジア研究所。
- ⑪ Akihiko Amemiya, “Die erneuerung der wirtschaftspolitischen ideen in der zwischenkriegszeit.”, Seminar: Die Anfänge des deutschen Neuen Liberalismus an der Tokyo University of Foreign Studies, 2009 年 9 月 29 日, 東京外国語大学本郷サテライト。
- ⑫ 雨宮昭彦, 「アーベルスハウザー、雨宮昭彦訳『経済文化の闘争—資本主義の多様性を考える』に関する講演」, 経営史学会関西部会, 2009 年 12 月 19 日, 大阪大学豊中キャンパス 待兼山会館 会議室。
- ⑬ Yasuo Takatsuki “Informational efficiency under the Shogunate governance: Concentration and integration of the rice market in Tokugawa Japan.” (presented in session J7, “States, institutions, and development: Standardization and enforcement of trades in diverse markets,” organized by Masaki Nakabayashi, Institute of Social Science, The University of Tokyo), World Economic History Congress, 2009 年 8 月 6 日, Utrecht University in Utrecht, The Netherlands.
- ⑭ 高槻泰郎, 「取引統治効果の派生と深化—近世期地方米市場の拡大—」(パネルディスカッション「統治と市場、そして組織—外なる差異の裁定と内なる差異の創出—」、組織者: 中林真幸(東京大学社会科学研究所)、における報告), 社会経済史学会 第 78 回全国大会, 2009 年 9 月 27 日, 東洋大学。
- ⑮ 高槻泰郎, 「江戸幕府米切手統制策の変容—18 世紀大坂米市場を中心に—」(近世史部会シンポジウム「18 世紀の近世」、組織者: 藤田覚(東京大学人文社会科学部研究科)、における報告), 史学会 2009 年大会, 2009 年 11 月 8 日, 東京大学。

- ⑫ Gerhard Kling, Masaki Nakabayashi and Takenobu Yuki, “The equity risk premium in Japan and Germany, 1870–1913.” World Economic History Congress, 2009年8月9日, Utrecht University in Utrecht, The Netherlands.
- ⑬ 結城武延, 「企業統治の成立—合理的な資本市場と綿紡績業の発展—」, 社会経済史学会 第78回全国大会パネルディスカッション, 2009年9月27日, 東洋大学.
- ⑭ HASHINO Tomoko (with KUROSAWA Takafumi), “Competition and cooperation for the fashion market: The development of a textile district in Japan supported by the functions of a trade association (1870s–1930s)”. European Business History Association Annual conference (jointed with Business History Conference), 2009年6月13日, Bocconi University.
- ⑮ HASHINO Tomoko, “The development of modern pulp and paper industry in Japan from late 19C to 20C: Rapid catching-up process in modernization”. The World Economic History Congress 2009 (第16回国際経済史学会), 2009年8月4日, University of Utrecht.
- ⑯ 堀井亮, “Dual poverty trap: Intra and intergenerational linkages in frictional labor markets”. 冬期マクロ経済学研究会 Winter Institute 2010, 2010年2月17日, 琵琶湖リゾートクラブ.
- 21 堀井亮, “Dual poverty trap: Intra and intergenerational linkages in frictional labor markets”. E S R I マクロ経済学研究会, 2009年6月26日, 内閣府 社会経済研究所.
- 22 石黒真吾, 契約構造の変化と経済発展: 動学的一般均衡アプローチ, 日本経済学会秋季大会, 2008年9月14日, 近畿大学
- 23 Masaki Nakabayashi, “Rise of the Japanese fiscal state, Department of Economics,” Workshop on Political Economy of Early Modern Institutions, 2008年4月12日, Bogazici University (Bosphorus University), Istanbul.

[図書] (計 15件)

- ① 佐々木聡・中林真幸 編著, ミネルヴァ書房, 『講座日本経営史 組織と戦略の時代 1914~1937』, 2010.
- ② 三和良一・鈴木俊夫, 山愛書院, 『日本たばこ産業—百年のあゆみ—』, 2009, 13–148.
- ③ Ryo-ichi Miwa & Toshio Suzuki (translated by T. I. Elliott), Tokyo: Japan Tobacco Inc. “The First Century of Japan Tobacco Inc.: origins and evolution 1904–2008”, 2009, 13–146.

- ④ 阿部武司・中村尚史 編著, ミネルヴァ書房, 『講座日本経営史 産業革命と企業経営 1882~1914』, 2010, 387.
- ⑤ アーベルスハウザー, 雨宮昭彦 (翻訳、解説), 東京大学出版会, 『経済文化の闘争 資本主義の多様性を考える』, 2009, 225+24頁.
- ⑥ HASHINO Tomoko, Hamburg: DOBU, “The Importance of Consular Reports for the Export Growth of Japanese Silk Fabric Habutae in the Late 19th Century” in Jorg Ulbert / Lukian Prijac (Hg.), Consuls et services consulaires au XIXe siecle. L’epanouissement d’une institution economique et politique, 2009, 524.
- ⑦ 鈴木良隆・橋野知子・白鳥圭志, MBA のための日本経営史, 有斐閣, 2007, 320p.

[その他]

ホームページ等

<http://sites.google.com/site/theoeio/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中林 真幸 (東京大学・社会科学研究所・准教授) 研究者番号: 60302676

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

雨宮昭彦 (首都大学東京・社会科学研究所・教授) 研究者番号: 60202701
石黒真吾 (大阪大学・大学院経済学研究科・准教授) 研究者番号: 60288496
石田潤一郎 (大阪大学・大学院社会経済研究科・准教授) 研究者番号: 40324222
大土井涼二 (大阪市立大学・経済学部・准教授) 研究者番号: 90433292
清水崇 (関西大学・経済学部・准教授) 研究者番号: 80323468
鈴木俊夫 (東北大学・大学院経済学研究科) 研究者番号: 00139982
瀧井克也 (大阪大学・大学院国際公共政策研究科・准教授) 研究者番号: 70346138
中村尚史 (東京大学・社会科学研究所・教授) 研究者番号: 60262086
橋野知子 (神戸大学・大学院経済学研究科・准教授) 研究者番号: 30305411
鳩澤歩 (大阪大学・大学院経済学研究科・准教授) 研究者番号: 90238238
堀井亮 (東北大学・経済学研究科・准教授) 研究者番号: 90324855
松村敏弘 (東京大学・社会科学研究所・教授) 研究者番号: 70263324
山本和博 (大阪大学・大学院経済学研究科・准教授) 研究者番号: 10362633